

体験記

私は、平成19年に技術士1次試験を受けることにより、技術士所得へのスタートに経つこととなった。

それまで、毎年業務に係る資格を所得することを目標にしてきた。コンクリート技士、舗装施工管理技士、給水装置監理技術者などを所得してきた。資格を所得してきた理由としては、試験を受けなければ、勉強はしないためである。だいたいの勉強方法としては、過去問題を中心に試験の2、3ヶ月前から試験勉強をすることで、合格できたものであった。

ある時、今年は何を受験するか迷っていた。近年、重要視されているコンクリート診断士かそれとも最高峰の技術士か。これまで、技術士という資格は雲の上の話であり、私が所得することは、不可能と考えていた。私の勤める会社は中小企業であり、より早くより安く現場を完了させることを目的としており、工期もほとんどが1年以内の工事であるため、技術的な思案をしている間に工期がなくなってしまうのが現状であった。ましてや、当社には技術士を所得しているものがおらず、試験の内容も知らない状態であった。

どうせなら、若くないのだから最高峰である技術士を所得しようとなり技術士1次試験を受験することを決意する。

参考書を購入し、中味を確認したが専門分野はある程度理解することができたが、一般問題はほとんど理解することができない。私は、大学はでているが工業高校出身のため科学、物理等が特に分からない。選択問題であるため、取り合えず過去問題を中心に勉強することにした。

この時、2次試験や体験論文提出、口頭試験をはじめ、技術士とはどんなものなのかをまったく理解せず、1次試験に望んだことが後から後悔することとなる。しかし、逆に理解していたら諦めていたかもしれない。

試験の3ヶ月前から毎日、帰宅してから2時間ほど過去問題を解き、日曜日は図書館に通い開園から勉強した。図書館は受験生や試験勉強をしている人、年配者の方も多く刺激になり、集中できる場所である。

3ヶ月、集中して勉強することができ、結果も8割以上できた。

そこで、満足したのがまたまた、後悔することとなる。合格した余韻にひたり、1月くらいまで何もなかった。

2月位から、2次試験の内容を調べ始める。「これは、そうとう勉強しなければ受からないぞ」と思い、専門書を買ひあさり通信講座の会社を探し始めた。受けるからには1回で合格したいと思いインターネットで、ある通信講座を受講することを決意したのが、既に3月になっていた。知っている技術士の方もいないため、極力電話などを活用しアドバイスが貰える講座を選択した。スクーリングもお願いしたいところだが、会社の休みが第2、4土曜日なので諦める。その講座の売りは、電話での親切な指導また、体験論文を優先的に書き始めて指導を行なうというものであった。体験論文を書ければ、一般や専門論文も書

けるということを強調していた。添削無制限、合格率 40%、金額 16 万円なり。

送られてきたのは、論文の書き方の CD と専門の論文を書くための資料であった。3 月中旬から体験論文を作成し、数回の電話指導が終わり 1 ヶ月が経過していた。専門の論文(コンクリートと大規模掘削)を郵送し、3 週間ほどで帰ってきた論文は、赤字で添削されておらず、HP の写真に記載されていたものとは違っていた。「今回は、合格のレベルに達しています。よって、電話での指導はありません。」「えーっ！最初に書いた論文が合格レベルに達しているなんて考えられない。ましてや、写真では赤字が沢山書かれている論文が記載されていたにも係らず、赤字で直してくれている項目もない。」

提出して訂正箇所がなく 3 週間もかかるため不信感が沸いてきた。また、3 週間もかかるのでは、無制限といっても数回しか提出できないではないか。

GW を前に不安な気持ちになってきた。家族には、GW が勝負だから今年の外出は我慢してくれと言って承諾を貰っている。もう、こうなったら、負のスパイラルに陥り、勉強をする気がなくなった。

そんな時、インターネットで調べていると、Hero 塾の HP に行きついた。そこには、具体的な勉強方法が記載されていた。1. 勉強と作業の違いを読んで「俺のやってきたことは、勉強ではなく作業ではないか」

2. 建設一般 建設白書の通読は進めない。「白書を通読しなくてもいい？ 確かにあんなに多い情報量は頭に入らないし、書き方が抽象的なので理解しづらい。」

3. 専門 「今までの自分経験の知識を具体的に書けばいいのか。」

4. 他人の脳を借りる？ 「エジソンでもアインシュタインでもないのだから、我々はいろいろなことで人の真似をしている。他の人知識を借りれば、手っ取り早く知識を吸収できるのではないか。」

5. この試験は、頭のいい人が受かるのではなく、諦めない人が合格する。「そうか！諦めなければ合格できるのか。」

まず、この講座の代表者に電話してみようと思立ち、記載されていた携帯電話に連絡をする。留守番電話になっていたが、後から電話を頂き現状を説明しいろいろなアドバイスを頂いた。即座に入塾を決めた。5 月末であった。試験まで、2 ヶ月と少し。

まずは、書いた論文を提出し、添削したもので Skype 指導をして貰った。今に思えば論文とは言えないひどいものだった。Hero 先生と話しているうちに少し、やる気になった。なんとか、5 論文ぐらい提出できたが、満足する状態では試験に望めなかった。

一般はアセットマネジメントと技術の継承が出題された。アセットマネジメントの意味は分かるが、論文を書くほどの知識はない。技術の継承は何となく分かるので、これを書こうと決めた。専門は、コンクリートと大規模掘削について自分の知っている知識を素直に書いた。試験が終わった瞬間「やはり、書くことって難しいなあ。今回ダメでも次回頑張ればいいか。」自信は、まったくなかった。評価を予想するとしたら、一般 B、専門 B かな。

結果、一般 B、専門 A。専門で A がとれたことで、自信になった。やはり、この勉強の方

法でいいのだ。

2年目、Hero塾にお世話になる。10回の論文と10回のSkype指導。その間には、塾生の仲間とも交流がもて、よい先輩ができた。(O氏。1回目の受験で合格)。

勉強方法は、①一般と専門(コンクリートと大規模掘削)のノートを作成し、専門書や塾生の論文を参考にして手書きで書き込む。②合格論文の手書きによる写し、③声を出して読む。

一般 地球温暖化を選択、専門はコンクリートと大規模掘削を選択した。一般の低酸素社会という文章を勘違いしてしまい、題意からはずれているのが分かった。

結果、一般B、専門A。またも同じ。負け癖がつかないように気をつけなければならない。

3年目、Hero塾にお世話になる。10回の論文と10回のSkype指導。今年は、専門は念のため原価管理を増やして勉強する。近年のコンクリートは難題である。原価管理の資料は、O氏から郵送して貰った。うれしいかぎりである。再度、ノートを作成しもう少し突っ込んだ知識を書いた。

机の上には「技術士合格！」の紙を貼る。やる気満々。論文の点数も40点を越えたものもある。自信も着いた。

いざ、試験。一般は我が国の現状を考慮した災害対策。「これは、40点以上貰った論文に似てる。貰った。ガッツポーズ」。専門は、大規模掘削と原価管理を選択した。どの論文も3枚ぎりぎりまで書けた。帰りの電車の中で復元をし、家路に着いてぐったり。かみさんから「今回はどうだった?」「大丈夫じゃないかな。」

復元論文をHero先生に送った。返信にて「難しいな。」とのこと。何度も読み返してみる。題意から外れている。私は、こんなにも知識がありますよと書いているだけ。力が入りすぎた。結果が出るまで不安になってきた。

結果を技術士会のHPで確認した。番号はなかった。悔しくて、会社を休んだ。立ち直れないと思った。

結果、一般C、専門B。

Hero先生からメールが届いた。「必ず、立ち上がれる。今年の講座は早めのスタートをする指導コースを設けるので、よかったらどうぞ。」とのこと。

ゆっくり考えた。どうせやるのだったら早くスタートをきったほうがいいと思い、11月末に申し込んだ。立ち上がった。

今年の勉強方法を考えた。これ以上の知識はいらない。10回の提出論文と今までの提出した論文とノートを使用し、今年は徹底的に手書きにこだわろうと思った。

毎日、3論文くらいを書いた。手に覚えさせるくらいに。通勤時は、ICレコーダーにて吹き込んだ論文を聞いた。また、疲れて書きたくないときは、声に出して読むかICレコーダーにて聞いた。途中仕事が忙しくなり、勉強できない時期もあったが焦りはなかった。

日曜日は趣味であるサッカーと家族との一緒に居ることにし、やる気のない時は酒を飲

んで早く寝た。

通常管理職である私は、部下の担当する現場を統括する立場であるが、今年は技術者が不足し、私が現場代理人として現場に従事することとなった。本社から車で15分であれば、他の現場を統括しながら現場も管理できるだろう。しかし、準備期間から現場が軌道に乗るまでの1ヶ月間は忙しくて勉強ができなかった。

ここで、Hero先生がおっしゃっていたことを思い出した。「合格するときは、合格するタイミングがある。」私は、5年前から管理職のため部下の現場を統括しているだけで、詳細に現場のことを分からない部分がある。体験論文は、部下が現場代理人として従事したものであるため、口頭試験で試験官に突っ込まれたら答えられないだろう。実際、同じ境遇の管理職の方が口頭試験で突っ込まれて撃沈した話を聞いていた。これは、いいタイミングなのではないかと考えた。これを体験論文に書こうと決めた。

昨年の失敗を繰り返さないために、熱くならず平常心でいることを考えた。Skype指導も世間話や他愛のない会話をしていたように思う。

試験当日は、リラックスしていた。2枚半を目標に題意から離れず、カッコをつけず自然な言葉で書くことを心がけた。全ての論文で2枚半と少し。

手ごたえはなかった。失敗したと思うところが、一般と専門にひとつずつあった。復元論文はすぐ作成したが、Hero先生に見て貰うのはやめることにした。なんとなく、昨年とは違い落ち着いていたので、今までの資料を本棚に整理し、必要でない物は破棄した。

合格発表の前日は、講習であったため、当社の出席者と遅くまで飲んでいた。翌日、朝4時頃目が覚めて、日本技術士会のHPを確認したがまだ発表されていなかったもので、また布団にはいった。再度、6時頃起きて確認したところ、番号があった。二日酔いでボーっとしていたが、なんとなくほっとした。子供とかみさんが起きてきて、「受かったよ」といい、今日は美味しい物を食べに行こうと約束をした。会社に行き、再度確認番号を確認していると、携帯電話にHero先生とO氏から祝福の電話がはいった。やっと嬉しさがこみ上げてきた。でもまだ、口頭試験があると思えば不安な気持ちになった。

体験論文をようやく提出する 때가来た。

Hero先生の指導の基、問答集を作成し声を出して何回も読んだ。問答集の作成時には、過去のいろいろな資料を探して、記憶をたどり寄せた。

自宅で、部屋の中や車の中で経歴、業務をひたすら声を出して読む。これを繰り返す。試験が近くなるごとに不安が迫ってくる。どんなことを聞かれるのだろうか、果たして答えられるのかどうか。

Hero先生に口頭試験の模擬試験を行ってもらった。Hero先生が相手でも焦ってしまう。ビデオを後で見たが、早口、焦りが分かる。このタイミングで模擬試験をやって貰ってよかった。インターネットで検索してみると、技術士法や倫理、最近のトピックスが聞かれると書いてあるので焦りだし、Hero先生にメールを送る。返信には、あざ笑うかのようにそんな聞かれないよとの返答。

妻が、仕事の合間をぬい、近くの神社に合格悲願をして貰ってお守りを貰ってきてくれた。

試験当日、朝 5 時半に起き、渋谷に向いフォーラム 8 の近くの喫茶店で、問答集を読み込む。そこに、同じようにスーツを着た緊張した人が自分の後から入ってきた。相手も私に気づいたようで軽く会釈をする。私の方から話しかけてみた。話を聞くと私と同じ年齢で、8 回目の受験でやっと合格したらしい。合格したと思わなかったので体験論文も書いていなかったらしい。「技術士法を覚えるのが大変ですね。」心の中で「そんなのあまり聞かれないと思うけどな」と呟いた。こういう人が結構いるのだろう。

試験の 30 分前に受付に行き、待合室に向う。みんな真剣な顔をしている。5 分前に部屋の前に行き、予定時間の 10 時半に呼ばれた。

やさしそうな試験官が二人。「今日はどこから着ましたか。」「朝、雪が舞っていましたね。」とリラックスさせようとしてくれている。

経歴と二つの業務を 10 分で説明せよとのこと。リラックスさせてくれたおかげで完璧。ただし、ここまで。一人の試験官の目つきが変わったのが分かった。後は、突っ込まれる質問ばかり。

この人が本当に自分で考えて、この論文を書いているのだろうか。この業務は、本当のことなのだろうか。この種の質問ばかりであった。

自然と早口になり、余計なことを話していると思うが止まらない。おそらく必死で説明していたのだろう。

自分の経歴の中の質問と専門分野での質問は、当然返答できた。技術士法も完璧。参考書やいろいろなところで書かれている、技術士綱要なんて突っ込んで聞かれない。Hero 先生の言うとおりの。私のこれまでの技術者としての要素を全て聞かれていると思った。時間はきっちり 45 分。

帰宅して、脱力感の中家族と焼き肉を食べに行った。妻から「どうだった?」「う〜ん。微妙かな。何とも言えない。」

結果が出るまで不安な気持ちになると思っていたが、何となく落ち着いている。しかし、何か他の勉強をする気にもなれない。正月をゆっくり家族と過ごして、趣味であるサッカーにでも没頭するかと考える。

正月を家族とスキー場で過ごし、だらだらしていた。1 月は仕事上のトラブルで、精神的にまいっていたので何もせず過ごしていた。日頃チェックしている、Hero 塾のページに 2 月の目標を Hero 先生が自ら書いていた。私も何かしなければと思い、合格していれば添削の手伝いをしたいと思い、不合格であれば落ち込んでも再度チャレンジするのなら、合格論文を手書きで書くことを決意する。朝、早めに出社し、1 論文を書くことにした。1 ヶ月が経過し、3 月に入ったが特別不安になつたりはしない。ただ、ドキドキ感は増してくる。

結果発表の前日はサッカーの試合を 2 試合こなし、夜は酒を飲んで寝てしまった。さすがに、3 時に目が覚めると、PC のスイッチを入れて技士会の HP を確認するが、まだアップ

されていない。再度、布団に入りウトウトとする。5時に確認したがまだアップされていない。そのうち、妻が起きてきて「結果どうだった?」「まだ、アップされていない。」

朝食をとりながら、PCを除いていると「平成23年度技術士2次試験発表」とアップされた。

おそるおそる、マウスをスクロールする。建設部門は、かなり下である。心臓がドキドキしている。施工計画の部分に指しかかった。番号があった。その瞬間手を叩き、「よし! あった!」と確か言ったのだろう。妻が「良かったね。」といい、画面に写った番号を写真に撮っている。

今夜はお祝いので何を食べるか考えながら1日を過ごすことにした。会社に出勤する前に、Hero先生に電話を入れた。「おめでとう。鈴木さんの番号を一番初めに探したよ。」うれしかった。やっとここまで着た。Hero先生の諦めなければ、大丈夫。これに尽きる。Hero塾にお世話にならなければ、きっと諦めていただろう。

会社のデスクに座り、再度番号を確認しお世話になったO氏をはじめ、資料を貰った方などに合格のメールを送る。直ぐに、お祝いの返信メールが届く。電話も鳴る。その日は、会社の社員には誰にも言わなかったが、お世話になった方から数日後に当社の社長と会うので、社長には報告したほうがいいとのこと。そして、喜びは名刺に技術士と刻んだ時にさらに大きくなるようだ。

夜は、回転寿司ではなくいい寿司屋に行った。生ビールが旨かった。毛蟹、刺身盛合わせ、焼魚を頼み焼酎、日本酒と進んでいく。こんな、気分はなかなか社会人になって味わえないのだろう。

翌日、社長に合格したことを告げた。凄く喜んで貰った。「おめでとう。当社は、今後これを期に技術者には技術士を目指して貰う。そして、報奨金もさることながら毎月の手当でも考慮する。これからは、技術士所得を目指す人の教育者として頑張ってほしい。」

また、新規プロジェクトのリーダーに抜擢された。Hero先生がおっしゃっていた周りが変わっていくってこういうことなのか。

1週間は余韻にひたり、何もしなかった。次の週初めに登録のための手続きを1日で終え、登録票を待つことにした。約、10日で送られてきたて、直ぐに名刺に技術士(建設部門)と刻んだ。うれしさが込み上げてきた。そして、近くの神社にお礼参りをし、Hero先生から頂いた5円玉を賽銭箱に投げ入れた。

3月の中旬に資格者票が届いた。すかさず名刺に「技術士(建設部門)」と入れてもらった。さらに実感が沸いてきた。

さして、技術士になれたわけだが、これは私ひとりの力でなれたわけではない。もちろん、指導してくれたHero先生を筆頭に時間を作ってくれた家族などのおかげである。感謝しなければならない。